



風は吹いているか

新潟県小学校長会
会長 山田 浩之

全連小の会議に出ると文部科学省幹部の話聞く機会があります。夏休み前でしたが、文部科学省には「追い風が吹いている」という話を聞きました。

「経済財政運営と改革の基本方針」いわゆる「骨太の方針」から、教員の処遇改善や定数の改善が進む可能性があるとのこと。「骨太の方針」には「教職の魅力向上等を通じ、志ある優れた教師の発掘・確保に全力で取り組む」とあります。今、教育委員会や学校現場を苦しめている、教員のなり手が少ないという問題を何とかしようとしています。これらは、国の予算の話ですので、この原稿が会員の皆さんに届いている頃には、予算案の閣議決定がなされ、追い風が本物だったのか、それとも気のせいだったのか、感じられることでしょう。

さて、国の予算について私たち一校長ができることは、ほとんどありません。しかし、「教職の魅力向上」なら、校長にもできることはたくさんあります。新潟県の全小学校長が、そのことに本気になって取り組めば、新潟県で教員になりたいと思う人を増やすことができるはずです。

まず取り組むべきは、働き方改革です。聞くところによると、「もう学校は、改革をやり尽くした。あと、何をしろというのか」という声もあるそうです。しかし、校長が持っている権限は、大きなものだと私は考えています。その大きな権限を使って、その地域やその学校に合った働き方をさらに進めていくことができるはず。例えば、各学校の教育課程は、学習指導要領等の法令に基づきながらも、校長の指導の下で編成されます。子どもにとって必要な資質・能力の育成を目指した上で、働き方を改善する視点も大切にして教育課程を編成しましょう。地域の校長会で情報共有をしながら、また、地域の教育委員会と連携しながら、より良い事例を積み上げていくこともできます。

働き方改革の効果は、教員の時間外在校等時間を減らすことだけではありません。教員のパフォーマンスを向上させ、教員自身を輝かせもします。

ジブラルタ生命が昨年度発表した、全世代の教員対象の「教員の意識に関する調査」において、教員になりたいと思った理由を聞いたところ、最も多くの教員が「尊敬する教員・憧れる教員に出会ったから」を選びました。私は、この結果を見て、心が温かくなり、うれしく、そして、自分のことではないと分かっているながらも、誇らしい気持ちになりました。今それぞれの学校で働いている多くの教員が、尊敬と憧れの対象となれば、遠くない未来において教員を目指す子どもが増えることでしょう。そのためには、教員が自らのパフォーマンスを向上させ、輝いていなければなりません。それは、どのような姿か。言うまでもなく、本気で子どもと向き合い、力を尽くして授業や様々な教育活動に取り組んでいる姿です。私たち校長は、「教育を司る」教員が、本気で力を尽くせるよう環境を整え、やりたいことができるように裁量をもたせ、あとは見守り、最小限の指導と、すべての責任を負うだけです。

校長は、風を学校に呼び込むことができます。自らの学校において教員を輝かせる風を吹かせてください。